

令和7年度 公立鳥取環境大学
学校推薦型選抜（Ⅱ型）問題

小 論 文
(環境学部 90分)

(注意事項)

1. 解答開始の指示があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題冊子は3ページ、解答用紙は2枚です。
3. 解答用紙の所定欄に受験番号、氏名を記入しなさい。
4. 解答用紙は横書きです。
5. 試験終了後、問題冊子と下書用紙は持ち帰りなさい。

以下の文章は、「地球環境問題は人間の文化の問題？ 人類学を起点に SDGs の本質を探る」という題名の、山極壽一氏へのインタビューの抜粋です。文章を読み、その後の問いに答えなさい。

森林が地球の陸地の 3 割になり、ウイルスと人の距離が縮まった

—感染症のパンデミックは人類の危機の象徴のように言われますが、そうだとすれば、人間の進化とはいったいなんだったのでしょうか。

新しいウイルスが、今後も人間を脅かし続けるという可能性は否定できません。世界の人口は 80 億、家畜の頭数もそれぞれの種で 10 億を超えている。地球にすむ哺乳類の 9 割が人間と家畜なのです。しかも野生動物がすむ森林は、地球の陸地の 3 割を占めるにすぎなくなった。牧場と畑が 4 割以上を占めています。ウイルス性感染症や細菌性感染症のほとんどが家畜由来です。要するに、感染の広がる個体群が大きいと広がらないわけですから、「家畜を経て人間」という経路がウイルスや細菌にとって一番たどりやすいのです。

—科学の力でウイルスの蔓延を食い止めることはできないのでしょうか。

ウイルスが人間に戦争を仕掛けているわけではないのだから、ウイルスと共生する状況をいかにして作るかを考えないといけない。人間は物言わぬ自然を支配しようとしてきた。それが間違いだということを思い知らされたわけです。自然と共生する方策を探らないといけません。

世界中の人がつながり合い誰ひとり取り残さない「信頼社会」の回復を

—共生という言葉を手がかりにして、SDGs についてのお考えを教えてください。

SDGs の 17 の目標の一つひとつが独立しているわけではなく、それらを一つのシステムとしてとらえることによってトータルな目標のなんたるかが見えてくると思います。17 の目標があつて、より具体的な 169 の数値化されたターゲットが並べられています。それらを個々別々に達成したからといって、全体としての目標が達成されるわけではありません。

「持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」という目標 17 がありますよね。世界中の人びとがつながり合って、誰ひとり取り残さないようにというわけですが、それは信頼社会の構築にはかなりません。

とはいえ、実際には、信頼社会は壊れ始めていますよね。信頼を欠く社会では、契約があらゆる関係のよりどころとなる。先進国と途上国の間に契約に基づく分業体制が確立され、先進国の人びとが欲するものを途上国の人びとに作らせる。契約は先進国に利益をもたらすようにできている。今ある奇妙な契約社会を信頼社会に戻すことこそが、SDGs の目指す究極の目標ではないでしょうか。

信頼社会を作る原資は社交なのです。人と人をつなぎとめる見えない糸が社交なのです。

地球的規模での社交の回復こそが SDGs の本質だと僕は考えます。

SDGs に欠けているものは何かというと、それは「文化」です。地球研初代所長の日高敏隆先生は、「地球環境問題を解決するのは自然科学ではなく文化である」とおっしゃった。2001 年にパリで開催されたユネスコ総会で「文化の多様性に関する世界宣言」が採択されたのですが、その第 1 条に「生物の多様性が生物にとって重要であるのと同じく、文化の多様性が人間にとって重要である」と書かれています。

ところが現実を目を向けると、文化の無国籍化、すなわち多様性の喪失が限りなく進行しています。多様な文化によってレジリエンスを高めてきた人類にとって、文化の均一化は陥ってはならない罠だったのです。ですから今求められているのは、文化の個性化、つまり無国籍化してしまった文化の多様性を取り戻し、認め合うことではないでしょうか。

日本人が大切にしてきた文化や共に助け合う心をないがしろにしない

一風力や太陽光などの再生可能（自然）エネルギーの活用を、どのように評価されますか。

化石燃料から自然エネルギーへの転換はいいことだという思い込みが文化を破壊している。つまり長い歴史を経て築いた景観という文化を壊していると感じています。

欧州からの訪問客が日本に来てまず驚くのが、日本の都市に緑が多いことです。その緑のあり処は神社です。キリスト教の教会にもアラブのモスクにも緑はありません。しかも、その神社が都会の真ん中にある。そして日本の誇るべきもう一つの景観が里山です。日本の景観を太陽光パネルで埋め尽くそうとするのは、文化の破壊以外の何ものでもありませんね。一SDGs というとすぐに再生可能エネルギーを連想する人が多いようですが、個別の目標にこだわりすぎて全体を見失うというわけですね。

京都の京北町で地元の高校生と SDGs に関する対話をしたとき、ある生徒が「山極先生、どこの会社も SDGs を推進しているようですが、SDGs が会社の隠れ蓑になっていませんか」と言いました。「君たち鋭いなあ」と感心しましたよ。それぞれの会社が自社の目標を達成すること自体はいいことですが、一つだけやってもだめだということです。菅前首相が言った「自助・共助・公助」のうち、SDGs 達成のために大切なのは共助です。人や企業が共助しながら、全体としての SDGs 達成を目指さないといけない。

出典:『やるべきことがすぐわかる 今さら聞けない SDGs の超基本』(2023) 泉美智子(著)、佐和隆光(監修)より抜粋(一部改変)

問 1. 下線部「家畜を経て人間」という経路がウイルスや細菌にとって一番たどりやすいのです。」の理由を、本文中の記述を用いて 200 字以内で説明しなさい。

問 2. 下線部「SDGs の目指す究極の目標」とは何か。80 字以内で記述しなさい。

問 3. 2001 年のユネスコ総会で採択された「文化の多様性に関する世界宣言」の第 1 条に「文化の多様性が人間にとって重要である」という記載があるが、現実には文化の無国籍化、すなわち多様性の喪失が進行している。文化の無国籍化の現象を、具体的な例（国内外を問わず）を用いて 300 字以内で説明しなさい。

問 4. 山極氏は、里山への太陽光パネル設置が文化の破壊であると批判している。一方、太陽光は再生可能エネルギーとして評価されている。あなたは山極氏の意見についてどう考えますか。理由を添えて 300 字以内で述べなさい。